# 『はかる』で環境を守る縁の下の力持ち

「『富士清空工業所』という社名は "富士山が映える清い空を。"という思いからつけられています」そう話すのは、令和元年に3代目社長に就任した奥田篤史さん。祖父から代々受け継いだ会社をどのように守っていくのか、承継の苦労や改革について、社長とその弟であり、経営企画部長の将旭さんにお話を伺いました。

株式会社富士清空工業所
代表取締役
奥田 篤史さん（右）
経営企画部長
奥田 将旭さん（左）

## 祖父から受け継いだ想い

ばい煙測定、水質検査、作業環境測定等を行って半世紀。「弊社の仕事は、決して目立つものでなく、言わば"縁の下の力持ち"です」

富士清空工業所の始まりは、昭和43年。当時は、四日市ぜんそくなどの公害が社会問題となっている時代でした。創業者である祖父・典一さんは会社設立以前、ボイラー技士として働いており、煙突から出る煙は身近な存在であり、仕事に従事しながら公害をなくしたいという思いを抱いていました。『公害をなくすには現状を正しく認識する必要がある。簡単に煙突の煙を調べることができないか』そこで典一さんは、自身で技術を磨き「ばい煙監視計」という煙のすすの濃度を測る道具を開発し、特許を取得。その後、富士清空工業所の名で『はかる事業』を立ち上げました。

「弊社の事業は法令に基づく公益性の高い事業です。現状を分析・測定し改善に繋げる手助けをしています」活動場所は、工場・学校・テナントビル・ショッピングモールなど多岐にわたります。「今では環境問題に対する取り組みが進み、煙突から出る煙のほとんどは環境に害のない水蒸気です。『いつしか公害問題が収まり、日本の象徴である富士山が映える清い空を取り戻したい』という祖父の願いは確実に伝わっています」

## 事業承継の苦労

初代社長から2代目となる篤史さんの父・俊一さんへと受け継がれたバトン。「父は環境の分析・測定に主軸を置きました。はかる対象を『水・騒音・振動・におい』などに広げ、事業を拡大しました。同時にお客様も増やし、父が繋いだお客様とは今でもお取引をしています」そしてそのバトンは2年前に篤史さんへ渡されました。「就任1年ほど前に話がありました。ただ、社会情勢が変わる中での社長就任への不安は、大きいものでした」化学工学を学び大学院卒業後、すぐ富士清空工業所に入社。分析や測定など技能面での知識や経験は豊富で自信を持っていましたが、財務状況や経営などの面ではあまり経験がなく、20名近くの従業員を抱える責任の重圧を感じていました。

そんな折、応用生物科学を学び、化学系メーカーや分析装置メーカーなどで経験を積んだ弟の将旭さんが会社に入社。「財務分析など数字を見ることが得意な弟の存在は心強いものでした」こうして兄弟で力を合わせた会社経営がスタートします。

## 承継後の改革『家業から企業へ』

2人が最初に行ったことは、現状把握。つまり、自社を『はかる』ことです。「売上の伸び悩みが根幹にあり、積極的な人や設備への投資ができませんでした。そういった課題を解決するには、土台を固める必要があると思い現状を把握することにしました」初めに会社の規則やルールをはかりました。「就業規則を1つ1つ見直しました。すると、時代にあっていなかったり従業員を重視したものでなかったりした部分が見つかりました」3か月かけて就業規則を見直し、社員にじっくりと話をして浸透させました。「規則の見直しにより、働き方を工夫して時間管理ができるようになり、以前よりも残業を減らすことができました。更に場当たり的な判断でなく、ルールに基づいて判断でき意思決定のブレが少なくなりました」次に、将旭さんを中心に、自社の財務状況をはかりました。「キャッシュフローの分析により、財務体質改善の道筋を立てることができ、今はそれを一歩ずつ実行する段階です」

次なる改革は、認知度アップです。"小規模事業者持続化補助金"を利用して、ホームページのデザインを見やすく改修。「補助金申請では、時間をかけて経営計画を立てました。その過程で課題が明確化していきました」また、採用活動等でのPRのため、会社ロゴマークをつくり商標登録し、パンフレットを作り、自社のブランド価値向上を図りました。

コンピュータを使っての分析

更には、社員全員のベクトルを同じにすべく、期首には方針発表会を開催。「会社の方針や想いを見える化しようと考えて取り組みましたが、想いや考えを言語化することに思いのほか苦労しました」まとめた『ビジョン・ミッション・カンパニースピリッツ』を社長が直接社員に伝えることで、意志を共有する組織となり、組織力も向上。また、現在人材育成や採用活動にも力を入れており、分析・測定作業には女性社員の活躍も見られます。"家業から企業"へと会社は変化していきました。

## 向かい風の影響を「強み×機会」で打破

兄弟で力を合わせて改革を進めていた矢先に、新型コロナウイルス感染症が流行し、工場や学校などへの訪問が制限され売上にも影響を及ぼしました。その様な中、溶接作業の際に出る煙（以下ヒューム）がガンの原因になるとして規則の改正が行われ、令和3年4月にヒュームのばく露※測定が義務化。それに伴い令和5年4月1日より、作業者の健康・安全保護の観点から、作業用マスクのフィットテストが義務化されることになりました。各個人に合うマスクを着用できているか、着用方法は合っているかを検査するものです。

「はかる力を活かすことができるのではないか…」そう考えた2人は、『マスクフィットテスト』という新分野への挑戦を決意します。「作業者が使用する保護具の検査という新分野への挑戦には、これまで培ってきた分析・測定のノウハウが大きな後押しになりました」今回の法改正にあたって、影響を受ける事業所の数は県内だけでも200社以上あります。「弊社は、ヒュームの濃度測定とあわせてマスクフィットテストができるということが強みです。多くの事業所から依頼を受けられる体制を整えています」

※さらされること

労研式マスクフィッティングテスターMT-05U型
本機械を使ってマスクフィットテストを行う

## これからの時代を生きる会社へ

「夏には、マスクフィットテストを事業化させます！」と強い意気込みの将旭さん。「祖父、父と代々受け継いできたノウハウや人脈を活かして"はかる"だけでなく、"一歩進んで"指導や助言"なども行っていき、お客様の事業活動を応援していきたいです。また、はかるプロフェッショナルとして仕事に邁進できるように、社員も大切にする会社にしたいです」篤史さんはこう話します。これからの時代を生き残る会社には、いかに付加価値をつけることができるかが求められます。これからも富士清空工業所は、社員一丸となって世の中の環境改善に寄与していきます。

株式会社富士清空工業所
所在地 岐阜市加納本町6-18
TEL 058-271-8727
FAX 058-271-8739